

## 河川湖沼流域の土壌母材と水質 および水性植物 (その1)

篠原 功・原田由美・上野靖子・中島夕子\*  
どすいかグループ\*  
(\*北海道文理科短期大学・酪農学園大学)

環境保全の観点から、我々は、自然環境の質の指標を河川湖沼の水質に求め、まずそれが水質とその流域の土壌母材との関連について検討することにした。

そこで現在、北海道内の河川湖沼の、おもに源流域から約数百点の試水を集め化学分析を進めている。今回は、分析の終了した試水 216 点の水質データと水生植物踏査結果を用いてごく簡単に予察した。

道内の河川湖沼湧水 216 点の水質分析結果は表 1 のようであった。

表 1 河川湖沼湧水 216 点の水質分析結果

測定項目	最低～最高	平均
RpH	2.7～7.9	7.1
EC $\mu$ S	26.0～490.0	95.1
SiO <sub>2</sub> ppm	2.0～80.0	36.3
K ppm	0.0～6.1	0.8
Na ppm	0.2～47.4	8.1
Ca ppm	0.8～110.0	9.0
Mg ppm	0.3～13.0	3.5

これが水の SiO 濃度は流域土地帯間で相違し概ね火山>沖積>洪積>泥炭の順であった。また道内に自生する水性植物は文献調査から 5 分類計 14 種を数え、樽前山系の沢で多くのバイカモ (水中植物) を観察し、室内実験により水中植物による水中への高い溶存酸素供給能を観察した。

なお、詳細は上記の予察データを含め、全サンプルの分析終了の段階でまとめて報告する。